



県外学習

育種と大規模環境制御技術について学ぶ (露地野菜専攻・施設野菜専攻)

7月9日(火)から7月10日(水)にかけて、露地野菜専攻及び施設野菜専攻の2年生28名が、タキイ種苗研究農場(滋賀県湖南市)と次世代施設園芸導入加速支援事業を利用して2014年に設立された株式会社兵庫ネクストファーム(兵庫県加西市)を視察しました。

初日は、タキイ種苗研究農場で野菜育種の現状について説明を受けた後に、研究ほ場を見学しました。研究ほ場では、味の良さ、作りやすさ、耐病性を重視して育種された品種の他に、植物の抗酸化物質すなわち機能性成分であるリコピンやカロテン等をたくさん含む品種も栽培されていました。学生は、苦味の少ないピーマン品種など、普段農大で栽培している品種とは異なる品種に対して関心を持ち、「消費者の評価はどうなっているのか」「管理方法や仕立て方はどうするのか」といった質問をしていました。

翌日は、大玉トマトとミニトマトを各々1.8ha栽培している兵庫ネクストファームの生産概要について説明を受けた後に、軒高6mの施設で、ハンギングベンチ上にあるミニトマトの片付け作業を体験しました。兵庫ネクストファームでは、甘み・酸味・旨味のバランスのとれたトマトを安定的に生産するために、環境制御装置を導入して生育に合わせて施設内環境を管理していました。学生にとって先進的な施設・設備は関心が高く、併せて高所作業車による作業を実演してもらうことで、実際の管理作業についての理解を深めていました。

兵庫県まで貸し切りバスで往復したため、移動時間が長く、あっという間の2日間でしたが、今後のプロジェクト学習や就農後の栽培品目選定などに役立つと思われ、有意義な視察となりました。

(農学科 宮田 将和)



[兵庫ネクストファームで高所作業車の実演を視察]

首都圏で花き業界のトレンドを調査 (鉢物・緑花木専攻、切花専攻)

7月9日(火)から10日(水)にかけて、鉢物・緑花木専攻及び切花専攻の2年生20名が、東京都内を視察しました。



[青山フラワーマーケットで店長に質問をする学生]

1日目は、表参道周辺の高級花き専門店である青山フラワーマーケット南青山本店

を視察し、店長から販売上の工夫等について説明を受けました。店の客層は30代の女性が中心で、売上の多くは花束であることから、季節感や特徴のある切花の品揃えを重視していました。学生は、商品の展示方法のセンスの良さや店舗奥にカフェが併設されているおしゃれな雰囲気に関心していました。

2日目は、東京都中央卸売市場大田市場花き部を視察しました。(株)大田花き花の生活研究所の桐生所長及び県東京事務所神林氏の案内で、セリ場や仲卸の店舗、ストックヤードなどを回り、その後、桐生所長より最新の花き情勢について説明を受けました。流行の切花はかすみ草やスターチスなど小輪多花の品目で、鉢物ではアジサイやシダ類、ヤシ類、コチョウランの人気の高いとのことでした。



[大田市場を見学する学生]

視察の最後は、夢の島熱帯植物館でした。ここではゴミの焼却熱を利用して大温室内に熱帯地域と同じ環境を再現しており、学生は普段見慣れたサイズとは違う巨大な観



[夢の島熱帯植物館の巨大な観葉植物]

葉植物に圧倒された様子でした。

今回の視察で、東京という巨大都市のスケール感と、顧客層を意識した戦略で行われている花きの流通や販売を学ぶことができ、有意義な研修になりました。

(農学科 近藤 満治、坂場 功)

校外学習

都市近郊の優良経営を視察(施設野菜専攻)

6月25日(火)に施設野菜専攻の2年生15名が、校外学習で株式会社横山農園(豊明市)と県農業総合試験場園芸研究部(長久手市)を視察しました。

横山農園の経営の主体は、トマトとメロンの栽培です。収穫量は販売が見込める量に制限して全量直売で販売しています。

横山代表取締役からは、農業経営の難しさやトマトとメロンの栽培方法、アメリカ留学での農業体験等、校外学習でしか聞くことのできない先輩農家からの貴重な話をいただきました。ほ場見学では、播種時期の遅い方から順にメロンのハウスを見学し、メロンの生育状況を経時的に観察することができました。



[横山農園の生産ほ場で栽培技術の説明を受ける学生]

トマトの加工品や直営レストランの経営を開始するまでの経緯の話は特に印象深かったようで、学生から「将来6次産業化を目指した農業をやろうと思っていたけど、まずは経営基盤を安定させることが重要だと分かったので慎重に考えようと思う」等の感想がありました。

県農業総合試験場では、野菜研究室の研

究成果としての新品種や無リン酸肥料試験の結果を説明していただきました。次世代施設野菜研究室では、モニタリング装置「あぐりログ」、ミスト灌水等の環境制御に関わる各種生産技術が説明していただきました。

施設見学では、細心の注意が必要とされるいちごの母株の増殖の難しさを学ぶとともに、海外から導入されたナスの野生種の特長調査を行っているハウスでは、海外から収集したナスの果実の形状の多様性に驚かされました。また、あぐりログのモニタリング状況やミスト灌水装置等、最新の施設や技術を学ぶことができました。



〔農業総合試験場で施設の説明を受ける学生〕

学生からは、「抵抗性の品種が出来たら作ってみたい」「スマホでハウス状況がわかるモニタリングを使ってみたい」という声が多く寄せられました。

(農学科 榎本 剛士)

生産物の品質管理と伝染病の水際対策を学ぶ(酪農専攻、養豚・養鶏専攻)

7月8日(月)に、酪農専攻13名と養豚・養鶏専攻8名の2年生計21名が、校外学習として稲沢市にある株式会社明治の「明治なるほどファクトリー愛知」と中部国際空港内にある「農林水産省動物検疫所」を視察しました。

「明治なるほどファクトリー愛知」は、酪農専攻の学生たちが毎日生産している生乳を出荷する株式会社明治の愛知工場に併設する見学専用の施設です。乳業界最大手、

最新鋭の工場に、学生たちは、普段自分たちが口にする牛乳及び乳製品が、いくつもの厳重な検査を経て製造されていく過程を、興味深く見学していました。

乳牛の飼養管理に伴う搾乳作業は毎日経験していても、集乳から先は殆ど知らない工程で、学生からは「自分たちの生産したものが丁寧に扱われていて嬉しかった」という感想もあり、酪農を目指す者の一人として価値を見いだせたことは素晴らしいと思いました。



〔明治なるほどファクトリー愛知の牛模型の前に〕

工場説明を受ける学生〕

一般の工場見学に加えて、農大生のためのカリキュラムも特別に組んでいただき、県内生乳生産の最近の動向、乳価について学ぶことができました。さらに、生乳の官能試験を行い、異常風味乳の違いを実際に自分の感覚で体験しました。普段の実習の搾乳作業において細菌数、体細胞数、乳脂肪率及び乳タンパク質含有量などの乳質に気を配るように指導していますが、今までの単なる作業としての意識から「安全・安心」といった厳しい品質を維持するための原点に立った「乳牛」の管理の大切さ、生産者としての責任感を学ぶ良い経験になったと思います。

次の「農林水産省動物検疫所」では、動物、畜産物の検疫業務についての概要、検疫探知犬の活動、精液・受精卵等の海外持ち出し等をDVD、スライドで説明いただきました。

県内においては昨年度末から豚コレラの発生が続いており、本校でも学校ぐるみでの防疫対策を実施しています。さらに、最近ニュースでも報道されたアフリカ豚コレラの国内でのウイルス発見を受け、水際対策の重要性、海外の窓口である国際空港での検疫業務の厳しさを学ぶことができました。



[農林水産省動物検疫所での講義を受ける学生]

畜産関係者の一員として、日頃の衛生対策の重要性をしっかりと認識する良い機会になったことから、今後の実習においても、より一層、衛生管理及び防疫対策に取り組んでくれることを期待します。

(農学科 西村 岳)

生産物の加工・付加価値化を学ぶ (作物専攻)

7月3日(水)に作物専攻の2年生6名が校外学習で、豊川市の農業法人「有限会社こだわり農場鈴木」、豊橋市の大豆加工業者「イチビキ株式会社」を視察しました。

こだわり農場鈴木では、活動をまとめたDVDを鑑賞した後、従業員から経営概況や特別栽培米・有機農業の取り組みについての説明を受けました。その後、育苗施設・乾燥調製施設・精米施設・保管庫などの主要施設や機械装備について見学しながら、社長より説明をいただきました。さらに、米や小麦を使用した加工品について、

実際に販売しているの商品を見たり、試食したりしながら、6次産業化の取り組みについて学びました。最後に、学生一人ずつ感想を述べるとともに質問を行ったところ、商品開発の方法などについての質問が多くありました。その後、豊橋駅でこだわり農場鈴木が経営している米粉クレープ店で、商品の試食を行いました。音羽米などの付加価値米の生産や6次産業化への取り組みについて学習する良い機会になりました。

イチビキでは、経営概況や商品説明を聞いた後、醤油の元となる種麴を作成する工程、圧搾工程、製品の充填工程などについて見学を行いました。学生は、加工施設の規模に強い印象を抱いたようで、機械の大きさや大豆の使用量に興味を示していました。また、圧搾後の粕の試食も行い、その味に驚いていました。その後の質疑応答では、大豆に求められる品質や、醤油の種類によって使用する大豆の種類を変えているのかなどの質問がありました。大豆を使用した醤油づくりの工程と求められる大豆品質について学習することができました。

(農学科 古川 恵)



[(有) こだわり農場鈴木での視察の様子]



専攻紹介

切花専攻

切花専攻では約1,500㎡の温室と300㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ベニバナ、ハイビスカスなど、10種類以上の植物を栽培しています。

実習では、播種、定植、施肥、摘蕾など様々な作業を行い、また、切花の収穫を毎朝行って週2回（月、金曜日）、市内の花き市場に出荷しています。

毎週水曜日に実施する実習販売では、学生がお客さんに直接、切花を販売することで接客方法やマーケティングについて学べるため、学生にも好評です。

今年度の学生数は21名（1年生11名、2年生10名）で、うち専業農家の子弟は9名（1年生6名、2年生3名）です。

1年生は、入学当初は慣れない雰囲気の中で不安な様子でしたが、2年生と一緒に実習をするうちに、徐々に環境に慣れて楽しそうに毎日を送るようになりました。この後、9月中旬から10月末までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞しくなってくると思われま



[出荷調整作業中の1, 2年生]

派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。テーマは仕立て方の検討、植物成長調整剤の施用効果の検討など様々ですが、いずれも単なる調査ではなく、収量、品質向上、コスト低減、省力化など農業経営の改善につながる課題に取り上げ、2年生の冬には卒業論文としてまとめ、専攻内で発表会を行います。

(農学科 近藤 満治)

酪農専攻

酪農専攻は、この春に1年生14名を迎え、2年生15名と合わせて29名の学生で専攻の実習・作業、生産業務を開始しました。搾乳牛としてホルスタイン種を約25頭、和牛雄や交雑種やホルスタイン種去勢の肉用牛約30頭、育成中の子牛・若牛約25頭の合計80頭前後を飼養しています。また、ET(受精卵移植)によりホルスタイン種から産出された雌和牛も含めて、繁殖和牛として5頭を飼養しています。ほかには、自給飼料用として学内ほ場で牧草やトウモロコシを栽培し、飼料費の削減に努めています。

酪農専攻の特徴としては、酪農家や肉牛農家の後継者として入学してくる学生は少なく（約17%）、ほとんどが非農家出身者ということと、女子学生が1、2年生合わせて29名中約3割の10名で、他専攻の女子学生の割合（約2割）に比べて高いことです。それでも、漫画『銀の匙』や新聞等で報道された『酪農女子』の影響から、女子学生の割合が6割を超えた一時期に比べると落ち着いてきています。また、ここ2年ほどは、農家子弟の学生も入学しており、非農家出身者の学生とお互いで刺激を与え合う良い関係づくりも期待されるところで



[飼料給与作業中の学生たち]

農業高校時代に牛の飼養経験を持つ学生もいますが、大部分が本校に入学して初め

て牛に触れることとなります。初めは牛の大きさに圧倒されていた新入生も、2年生の厳しくも熱意のある助言指導と職員のサポートにより、みるみるうちに成長していきます。入学後、数ヶ月で牛の扱いにもなれ、日常の管理作業も責任を持って実施できるようになります。また、体重測定等で牛の引き回しをする際に、思うにまかせない牛の挙動に苦労し、時として650kgもの体重の牛に足を踏まれることもあり、牛を扱う作業には常に注意が必要であることを、身をもって学びます。



[ミルクパーラー内での搾乳作業]

酪農は、1年365日1日たりとも休みがありません。土日や祝日、学生休業日は、当番学生だけで搾乳や飼育管理を行います。限られた人数で管理作業を行うため、作業の工夫や協力体制など、学生同士がお互いを思いやる気持ちが強くなり、専攻内の結束力が強いのも特徴です。

また、年間20頭程の新しい命の誕生を目の当たりにすることは、学生にとっては大変貴重な体験の一つとなります。分娩前の状態確認や実際の分娩看護、子牛が生まれ無事乳を飲むまでの介助など、自らの行動が結果に大きな影響を与えることを実感します。産みの苦しみを共感しての誕生の喜びは、我が子の誕生のような感覚を持つのではないかと思います。

こうした様々な体験を通して、学生たちが成長することを大いに期待しています。

(農学科 川上 幸裕)

農業者生涯教育研修 生産高度化研修（作物部門）を開催

7月8日（月）に愛知県米麦振興協会との共催により、「稲・麦・大豆種子の安定生産に向けて」をテーマとした研修を実施し、県内の種子生産農家など79名が参加しました。



[熱心に聴講する参加者のみなさん]

講師として県園芸農産課 稲・麦・大豆グループの伴佳典主任をお招きし、「種子法廃止に係る愛知県の対応について」と題した講演をいただきました。主要農産物種子法廃止後も愛知県では従前どおり種子生産、供給を行っていくことについてお話をいただきました。

併せて県農業総合試験場作物研究部水田利用研究室の船生岳人主任研究員から「原種生産について」御講演いただきました。原種生産の為に病虫害、異品種混入のないようにした、様々な対策を行っていることを学びました。

総合質疑では、主要農作物種子法廃止後の対応を中心に活発な質疑応答がなされました。

参加者からは「愛知県が主要農作物種子法廃止後も種子生産に関与することを学ぶことができた」などの声が聞かれ、有意義な研修会となりました。

(就農支援科 石本 聖絵)

GAP研修会は大好評

7月9日（火）、東海農政局及び県農業経営課との共催で、GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）の研修会を開催しました。研修開催日直前に西尾市、長久手市及び瀬戸市で豚コレラが発生し、防疫対策のため出席できなくなった農業改良普及課職員もおり、出席者はGAP取得を目指す農業者等33名でした。

東海農政局田村地方参事官から「GAPをめぐる情勢と導入支援」と題し、GAPとは？、「GAPをする」と「GAP認証をとる」との概念の違い、今なぜGAPなのか？などについての講演がありました。

安心農業株式会社（千葉県）藤井社長からは、農業者からの視点で「生産現場から見たGAPの必要性」と題して講演をいただきました。海外と比べた日本市場流通の特殊性や人口減少と予想以上の劇的な国際市場の変化から、GAPに取り組むメリットに触れられました。特に、GAP取得が目標ではなく、GAPを「道具」として使いこなし、「良い農場」を目指すことが必要であると熱く語られました。また、労働安全の視点から、農作業事故防止について動画を使って注意喚起もされました。



〔ジェスチャーを交え熱く語られる藤井社長〕

県農業経営課間下主任主査からは、愛知県のGAP推進の取り組みとともに、愛知

県GAP認証を取得した、「愛知いしかわ菜園」及び「西尾茶愛知県GAPの会」の概要も説明していただきました。

参加者のアンケート結果では、「大変参考になった、参考になった」と回答した参加者が合計で80%以上で、特に農業者の視点で熱弁を振るわれた藤井社長の講演は100%でした。

GAPは重要な施策として、国や県で推進されています。現場で実践されている方のお話は、格段の重み・深みがあり、受講者にとって説得力のある研修会となりました。

（担い手支援科 野々山利博）

本年度も189校の高校を訪問しました

高校生が進路の選択肢の一つとして農業大学校を考えてもらうよう、各高校の先生方に情報提供することを目的とした高校訪問を、例年6月から7月にかけて行っています。

本年は、6月17日（月）から校長を始めとする農大の職員28名が分担し、県内の高校189校を訪問しました。

訪問先の高校では、進路指導や3年の担任の先生にお会いし、学校案内やリーフレット、募集要項等を資料にしなが、入学試験の形態、学習内容、各種研修、寮生活、卒業後の進路について説明しました。特に8つの専攻に分かれた実習主体の実践教育、学生寮が新築され各個室に冷暖房が完備されたこと、非農家出身の学生でも就農や就職先に関して心配ないことなどを具体的に伝えました。また、卒業生の進路や入学生の近況などの情報提供も行いました。

訪問先の先生からは、「卒業後、すぐに就農する学生はどれくらいいるのか」「商業高校で学んだことは、農大でどれくらい役立つのか」「非農家学生の農業大学校卒業後の進路はどんな状況か」「四年制大学への編入学は、どの大学に実績があるのか」

「JAへの就職は可能なのか」「他県の農大と比較して、入試倍率はどうか」などの多くの質問を受け、本校への関心の高さを感じました。

近年は、農業高校からの入学に加え普通科等の高校からの入学者も増える傾向にあります。また、女子生徒の入学希望者も徐々に増えています。

この訪問によって、来年度も農業について学ぶ意欲が高く、将来の農業の担い手となる学生が大勢集まってくれることを期待しています。

(学務科 鈴木 聡)

農学科後援会地域研修会を開催

農学科後援会では、後援会員（保護者）相互の交流を深めるとともに、地域の農業改良普及課及び農業大学校職員との情報交換を目的とした地域研修会を毎年開催しています。

本年度は、6月28日（金）に尾張・海部地域、7月5日（金）に知多地域、7月12日（金）に西三河地域、7月19日（金）に東三河地域と田原地域で、それぞれ開催し、合計で63名の会員が参加しました。

5地域合わせて63名の会員が参加し、農大からは、学業や学校生活、進路指導等についての状況を説明しました。会員である保護者からは、実習、進路、寮生活など様々な質問や意見等が出されました。大学校と保護者相互の理解を深める大変有意義な研修会となりました。

(学務科 伊藤 正美)

農学科の専攻実習等に使用する大型トラクターを購入しました

教育部農学科では、優れた農業の担い手を育成するため、実践的な技術を習得させています。

このうち、作物専攻（米、麦、大豆等）、

露地野菜専攻（キャベツ等）並びに酪農専攻（飼料作物等）の3つの専攻では、大型トラクターとその作業機（ロータリー）による田畑の耕起や整地は欠くことができない作業であり、毎年大型トラクターを使った実習を行っています。

加えて、近年、非農家出身の学生が約6割を占めることから、卒業後、自らで農地や機械を取得して就農する自営より、農業法人に雇用される雇用就農が増えております。こうした農業法人では、大規模な農地を大型のトラクター等を用いて効率的に作業を行っていることから、本校の学生が大型の農業機械の操作ができるよう、大型トラクター等による実習をカリキュラムに組み込んでいるところです。

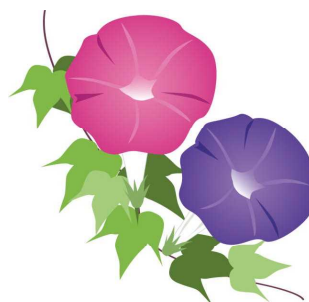
こうした中、故障により廃車した昭和56年度導入の大型トラクターの更新機となる待望の大型トラクターが7月30日に導入されました。



[導入したばかりの大型トラクター]

今は夏季休暇中ですが、2学期から田畑の耕起や整地等の様々な実習やほ場管理に活用していくことになります。

(教育部長 黒田 貴信)



農大からのお知らせ

◇「愛知農業次世代リーダー塾」 の受講生募集◇

農業大学校では、農業経営者の経営発展支援及び本県農業を牽引する農業者の育成のため、農業者が営農をしながら経営ノウハウを学ぶ場として、今年度も「愛知農業次世代リーダー塾」（委託先：株式会社マイファーム）を開講します。

- ・開催期間
令和元年9月11日（水）から
令和2年2月12日（水）までの内12日間
（計12回×6時間/日＝72時間）
- ・カリキュラム
経営ノウハウを体系的に習得するため、経営理念、マーケティング、財務・労務・人事管理等に関する講演、講義、演習を行います。

また、農業経営の「カイゼン」のため、講座「トヨタ生産方式に学ぶ」（計3回）による実践的な研修を行います。

カリキュラムの内容（案）

回	分類	内容
1	経営管理、経営理念	開講式、【基調講演】こと京都の歩みと経営理念 【講演】経営者に必要な経営理念とビジョン
2	経営戦略	【ワーク】ケーススタディ（マーケティング、ビジネスモデル）、【講演】次世代農業カンパニーの経営戦略
3	経営理念、マーケティング、財務入門	【講演】農業にマーケティングの発想を、【ワーク】マーケティング戦略の策定、【講義】農業経営の夢とお金
4	経営戦略	【発表】経営理念中間発表、【講演】理念を軸とした多角経営、【講義】SWOT分析と戦略策定、【ワーク】経営計画の全体像
5		【講義】トヨタ生産方式の理念 【ワーク】生産性に関する課題分析
6	トヨタ生産方式に学ぶ	【視察】トヨタの「カイゼン」実践農場に学ぶ
7		【講義】課題分析結果とディスカッション、【ワーク】生産性改善のための取組策定、【発表】取組発表とディスカッション
8	財務管理	【講演】管理会計の基礎、【講演】資金調達の実践的方法、【講義・ワーク】財務の観点から考える生産性向上の取組及び営業・マーケティング戦略
9	人事労務、人材育成	【講義】マネジメントの基礎 企業経営に必要な人事・労務管理、人材育成の仕組みづくり、【ワーク】雇用計画作成
10		個別経営指導
11	経営計画	【講義】リーダーシップスキル、【講演】経営者としての決意と経営計画、【発表】経営計画発表
12		【発表】経営計画発表会、修了式

- ・受講対象者
受講後3年経過するまでに次のいずれかを達成することが見込まれる方です。
①売上高10%以上拡大 ②経営コスト10%以上縮減 ③6次産業化 ④経営面積10%以上拡大 ⑤雇用者数10%以上増加 ⑥法人化 ⑦海外輸出
- ・募集定員
20名程度（応募者多数の場合は選考を行います）。
- ・募集期間
令和元年7月10日（水）から
令和元年8月21日（水）まで（必着）
- ・受講料：24,000円/名
- ・申込み
7月10日（水）から、本校ウェブページにて受付を行っています。
- ・問合せ先：担い手支援科（野々山）
0564-51-1034

◇オープンキャンパス(サマーキャンパス)◇

農業大学校への入学を考えている生徒・学生やその御家族、県民の皆様を対象としたサマーキャンパスを開催します。

農業大学校の概要を説明した後、学生寮（和耕寮）や広大な敷地にある実習ほ場を見学していただきます。また、入学に関する相談にも応じます。

農業大学校に関心のある方は、ぜひ御参加ください。

- ・開催日時
第1回 7月31日（水）
第2回 8月7日（水）
第3回 8月28日（水）
- ・対象：農業大学校に興味のある高校生及び御家族並びに県民の皆様
各回とも午後1時30分から午後3時まで
- ・場所：農業大学校
岡崎市美合町字並松1-2
- ・事前申し込みは不要です。
- ・歩きやすい服装と靴、帽子や水分補給のため飲み物をご持参ください。

- ・問合せ先：学務科(伊藤)0564-51-1602

◇緑の学園（1日農業体験学習）◇

- ・開催日時
第5回 12月24日（火）
午前10時から午後4時30分まで
(雨天実施)
- ・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
- ・定員：30名
- ・場所：農業大学校
- ・受講申込書を郵送またはファクシミリで研修部まで送付してください。
(締切日：12月1日（日）)
- ・詳細は本校ウェブサイトをご覧ください。
- ・問合せ先：就農支援科(野村)
0564-51-1034

◇令和2年度入学者選抜試験◇

一般推薦入学試験

- ・出願期間：令和元年9月30日（月）から令和元年10月16日（水）まで
- ・試験日：令和元年11月1日（金）
- ・合格発表：令和元年11月13日（水）
- ・試験科目：小論文（800字以内）
面接試験
- ・募集人員：定員100名のうち2／3以内
(特別推薦入学者を含む)
- ・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験

- ・出願期間：令和元年11月12日（火）から令和元年11月27日（水）まで
- ・試験日：令和元年12月10日（火）
- ・合格発表：令和元年12月19日（木）
- ・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
面接試験
- ・募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数
- ・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験

一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他

- ・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ウェブページをご覧ください。
- ・問合せ先：学務課(鈴木)0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和元年8月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・販売日：8月7日、14日、21日、28日
(祝日を除く毎週水曜日です。)
- ・時間：午後3時から
- ・場所：農業大学校体育館
※なお、袋入り堆肥の販売は、豚コレラ防疫対策の実施状況に合わせて再開します（現時点では、9月11日からの販売再開を予定しています）。
- ・問合せ先：農学科(山本)0564-51-1673

校内で豚コレラ防疫対策実施中

農大では、豚コレラ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 主要な教育施設の各出入口付近全てに踏込消毒槽を設置(靴の消毒)
- 関係車両等の消毒の徹底
(車両消毒槽、動力噴霧器)
- その他、諸防疫対策を実施

